

2021年10月

民俗 — No. 23

けんぱくものしりシート

えんぶりのエボシ



こちらは「えんぶり」と呼ばれる民俗芸能で、舞い手がかぶる「エボシ」です。

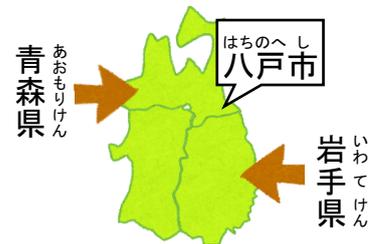


解説員

えんぶりはその年の豊作をいって新年に行われます。今の八戸市を中心に、青森県の南部から岩手県北部にかけての地域で伝えられてきました。

「えんぶり」ってどういう意味なの？

「えんぶり(えぶり)」というのは、田んぼを平らにするために使われていた道具の名前です。田んぼの神様をゆさぶり起こすため「えんぶり」をかたどった杖などを手に持ち、田んぼを平らにする動きを真似て舞ったことから、この舞もえんぶりという名前と呼ばれるようになったと考えられています。



エボシが3つあるね。3人で舞ったのかな？

「えんぶり」そのものは3人で舞うことが多かったようです。エボシをかぶったえんぶりの舞い手は「太夫」と呼ばれ、太夫にはそれぞれ藤九郎、ナカグロ、クロドメなどの名前があります。その他にもえんぶり以外の舞い手や、歌い手、たいこや笛といった楽器を演奏する人たちなど、ひとつの「えんぶり組」には合わせて15~20人くらいの方がいます。また、「えんぶり」を舞うことを「摺る」と言い、えんぶり組の団を「一摺り」とも呼びます。



えんぶりのエボシは和紙を何枚も重ね、漆をぬって作られています。
 神様が降りてくるための目印である「よりしろ」の役割があると言われ、
 馬の頭に似た形をしています。



えんぶりは「ながえんぶり」と「どうさいえんぶり」の大きく2つにわけられ、
 エボシのデザインも少しずつちがっています。

ながえんぶり(ごいわいえんぶり)

- ・主役の太夫(藤九郎)と脇役の太夫に
 わかれ、ゆっくりと静かに舞う。
- ・藤九郎のエボシには赤い
 ボタンの花などを
 かざることが多い。



どうさいえんぶり

- ・太夫全員が激しく勇ましく舞う。
- ・それぞれのエボシには「前髪」と呼ばれる、5つの色の
 きれいな紙を垂らす。
 (色の数が多いこともある)



博物館で展示しているのは軽米町の「小軽米えんぶり保存会」
 からいただいたものです。「前髪」がついていることから
 どうさい系のえんぶりだということがわかります。

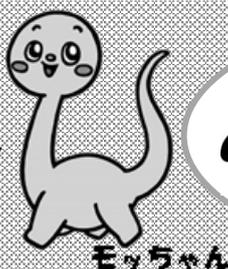


太夫のエボシの絵にもそれぞれちがいがあんだよ！
 展示している小軽米えんぶりのエボシを見てみよう！

★がついた絵は反対側にかかっているよ！

参考 『岩手のえんぶり』 福田重義 1993年 / 『えんぶりの違いと歴史』 八戸市鷗盟大学第37期えんぶり研究部 2013年 / 『えんぶり烏帽子写真集 歌詞集』 八戸市鷗盟大学第37期えんぶり研究部 2013年 他

「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時
 のものです。最新情報ではございませんので、
 あらかじめご了承ください。
 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆し
 ております。



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>